

藤原氏関連遺跡矢立廃寺跡

嶋影壮憲（大館市教育委員会）

1. 矢立廃寺跡（秋田県史跡・昭和34年1月指定）

1) 所在地

○秋田県大館市白沢字松原

2) 調査主体・年度

○秋田県教育委員会と花矢町教育委員会が測量を主とする調査（昭和39年）。

○大館市史編さん委員会が遺跡東部（A区）調査（昭和48年）。

○大館市教育委員会が東部と北部（A～C・G区）調査（昭和59～61年）、（C～F区）調査（平成12・13年）。

3) 伝承

○後醍醐天皇側近の萬里小路藤原藤房卿（無等良雄）の隠遁の古跡と伝えられている。

・松原補陀寺は矢立にあった寺を遷し建てたとも伝えられている。

4) 立地

・下内川に面した比高約10mの段丘崖が半島状に突き出した部分（標高約125m）。

2. 発掘調査の成果

1) 遺構と遺物

○遺跡は3つの平坦面（A区、B～E区、F区）がある。面積は約5,700㎡。

「遺構」：建物は掘立柱建物2棟と礎石建物5棟の二時期あり、改修が推測される。

新段階は礎石建物からなる。雨落ち溝と井戸、便所などがある。

「遺物」：①出土陶磁器類は、中国製白磁、国産陶磁器類（土師器、珠洲）で、土師器の大半は皿（かわらけ）である。②砥石もある。③篝火テウギも出土。

2) 東北北部における「居館」か「寺院」

○12世紀前半（？）から12世紀後半（ほぼ第3四半期頃）まで存在した「寺」？

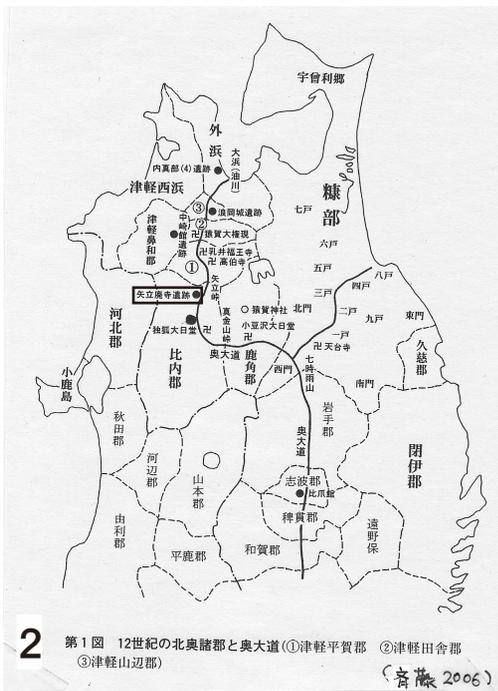
・奥州藤原氏の「清衡」期？から「秀衡」期までの50年間。

・当遺跡の古段階の火災と廃絶が指摘されており、興味深い。

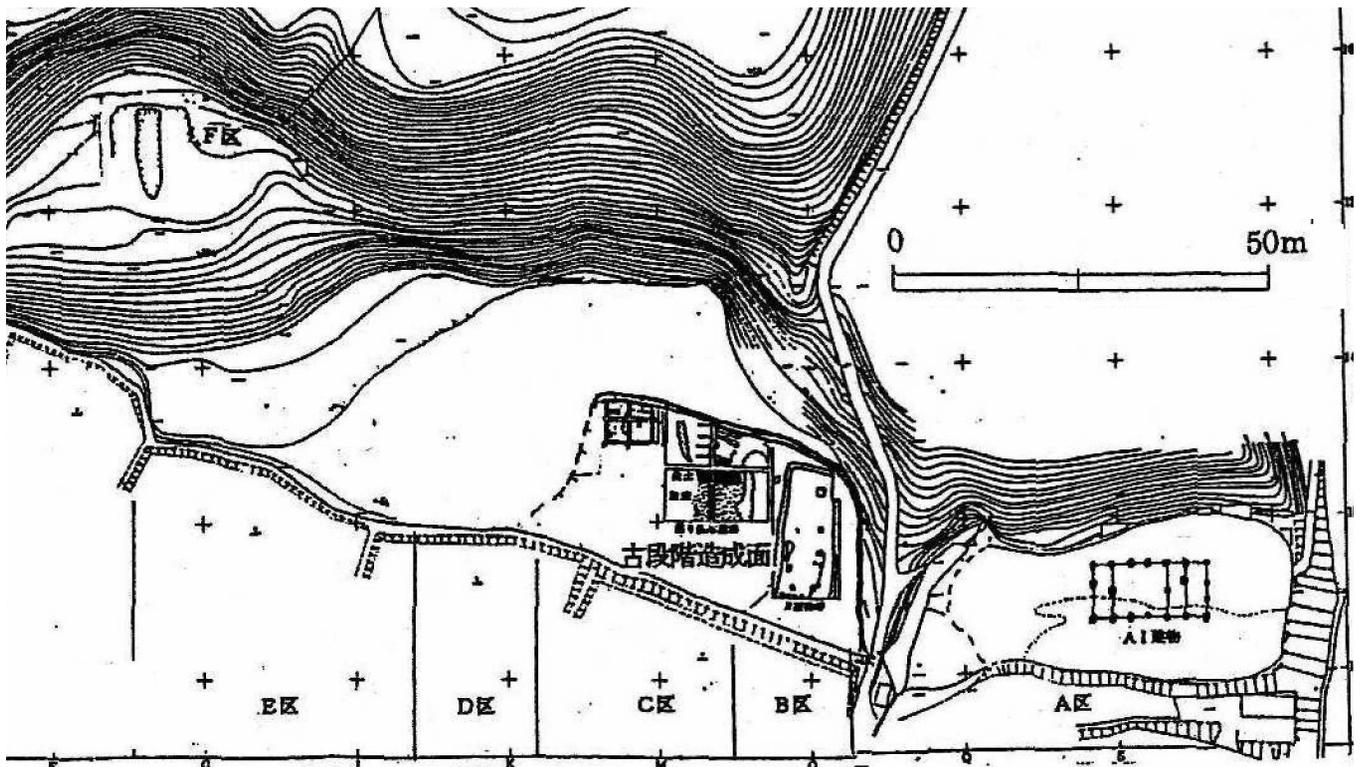
○遺跡は周囲を山で囲まれた場所にあり、宗教的な機能を考慮して造営されたか。



1 遺跡の位置 (1 / 25,000) (宇田川2003を一部改変)

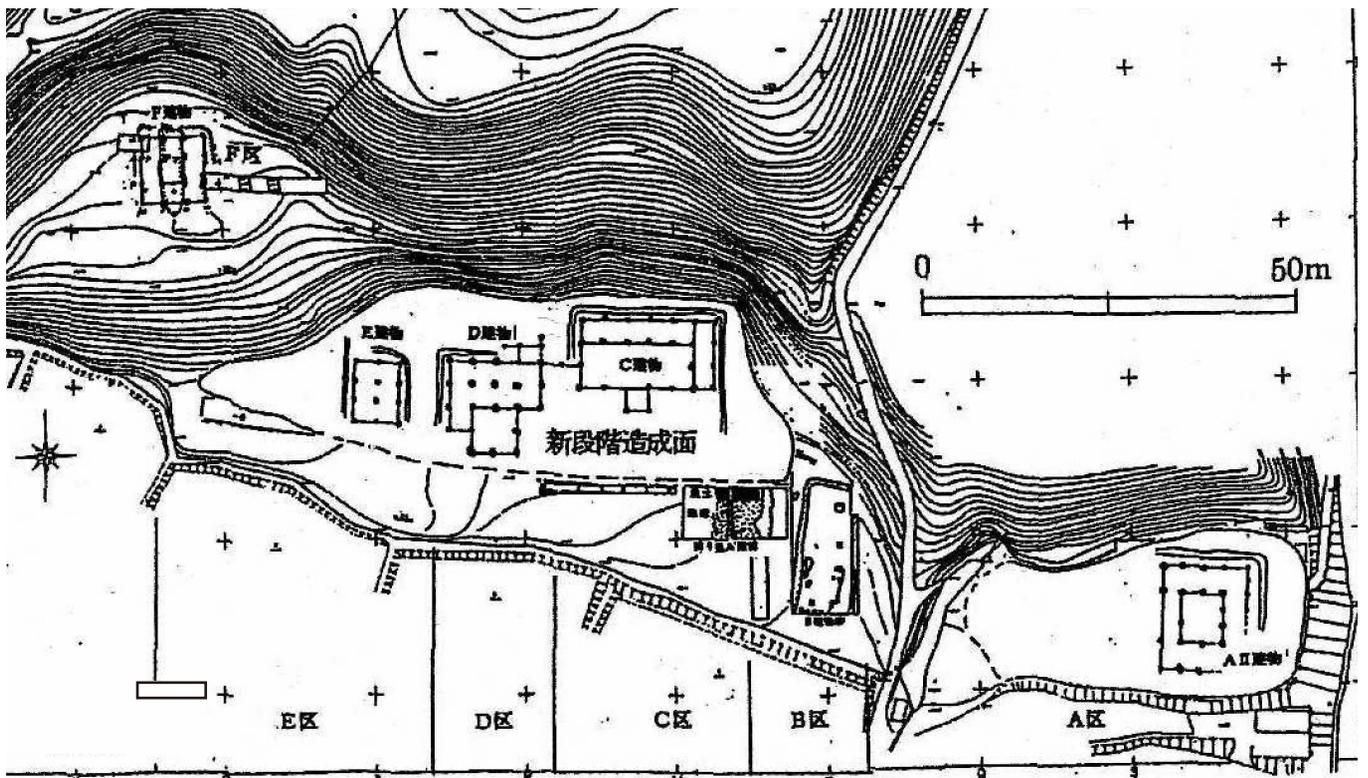


2 第1図 12世紀の北奥諸郡と奥大道 (①津軽平賀郡 ②津軽田舎郡 ③津軽山辺郡) (斎藤 2006)



1 矢立廃寺古段階

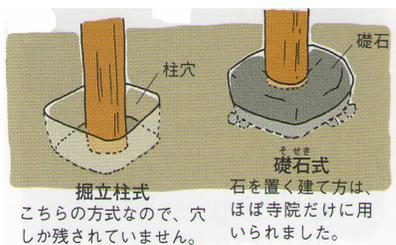
報告書(大館市教委 1987)掲載地形図に加筆



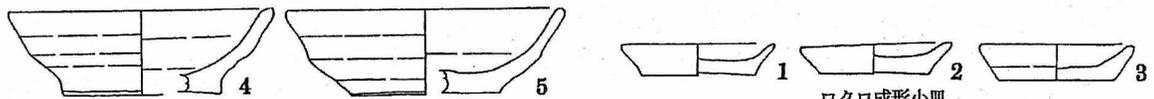
2 矢立廃寺新段階

報告書(大館市教委 1987)掲載地形図に加筆

(1・2 羽柴2010を改変)

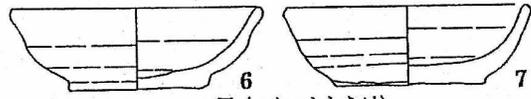


3 (サンライズ出版『12歳から学ぶ滋賀県の歴史』)

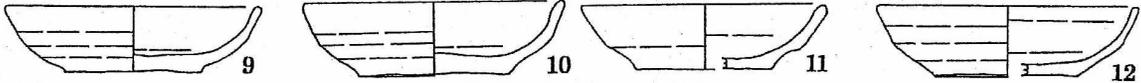
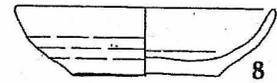


A類 (土師質土器)

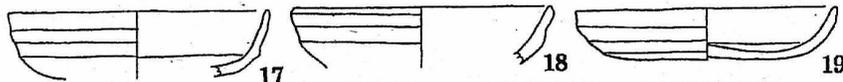
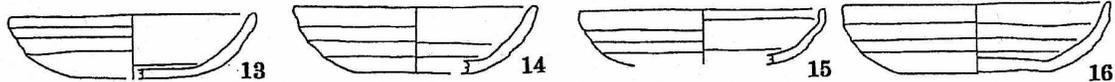
ロクロ成形小皿



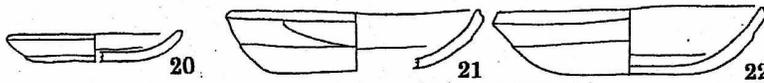
B類 (ロクロかわらけ)



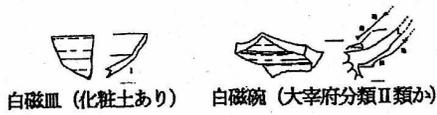
C類 (8~12 ロクロかわらけ)



D類 (13~19 手づくねかわらけ 口縁部3段まで)



E類 (20~22 手づくねかわらけ 口縁部1段まで面取り)

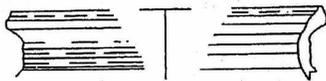


白磁皿 (化粧土あり)

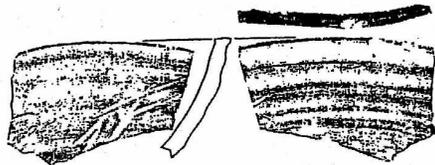
白磁碗 (大宰府分類II類か)



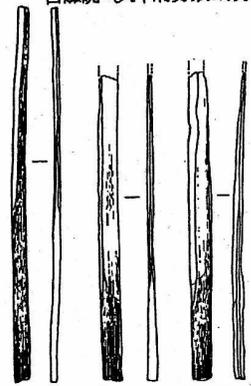
白磁碗 (大宰府分類IV類)



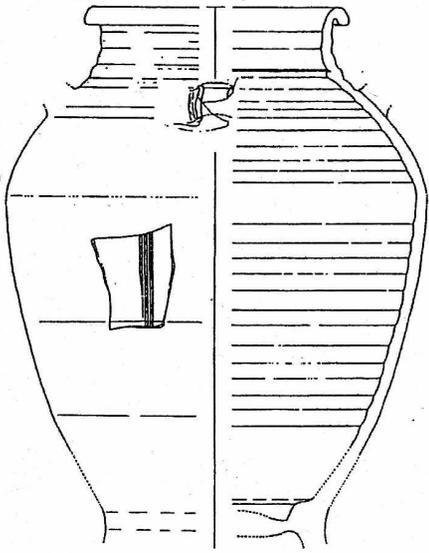
中国産陶器壺 (大宰府分類耳壺X II類か)



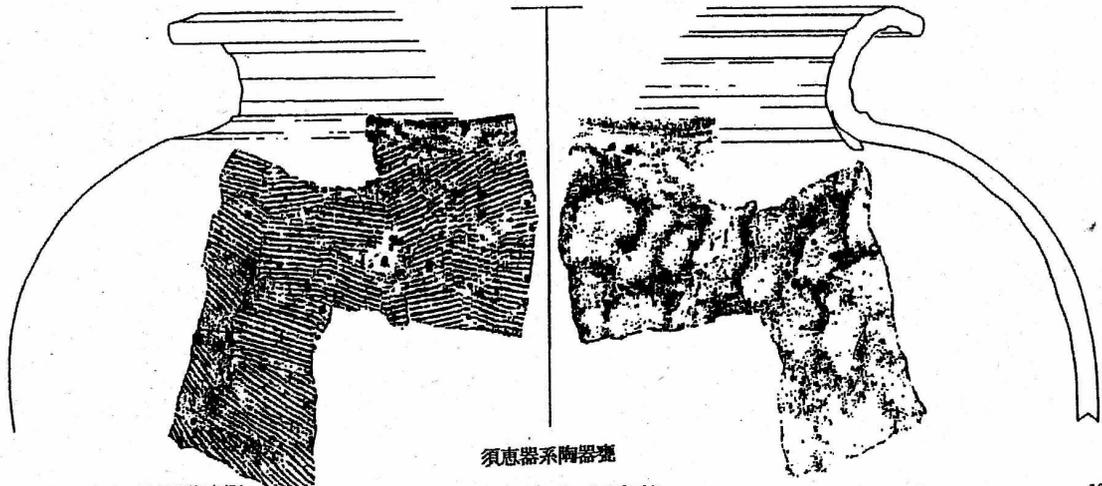
須恵器系陶器片口鉢



チュウ木 (トイレ状遺構出土)



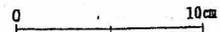
白磁四耳壺 (大宰府分類壺II類)



須恵器系陶器壺

土師質土器・かわらけは羽柴実測
 その他は報告書 (大館市教委 1987) より引用

矢立磨寺出土遺物



(羽柴2010)